

株主の皆様、および投資をお考えいただきました皆様へ

公募増資の中止に関するご説明

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日付で開示させていただきました今般の公募増資の中止という行為に対し、謹んでお詫びを申し上げます。このような判断をいたしました背景をご説明申し上げます。

私は平素から市場は正しい、世の中は正しいと考えております。今般、増資を発表させていただいて以降、当社株式の価格は大きく下落いたしました。その事実を目の当たりにし、「今回の増資をこのまま実施させていただくことは正しいことなのだろうか」、「人として正しいことはなんだろうか」と何度も自問自答を繰り返してまいりました。

背景には、消費税問題や景況感の変化、ウクライナ問題や中国経済への懸念、米国の金融緩和縮小等の海外要因等に基づく市況の軟化ということもありますが、当社株価の大幅下落という事実を見ましたときに、明らかに市場からは今般の当社の増資に対し「ノー」という結論を突きつけられているということ。そして、本来、事業とは常に社会との調和の中で行うものであるにも関わらず、現在の実態を鑑みると、今般の増資という行為そのものが「市場と調和していない」という思いに至りました。また、不動産市況に回復の兆しがみられ、今後東京オリンピック開催を控える中、一段の成長を目指し資金調達を実施しようとした私たちの行為自体が、「まだお前たちにはその力はない」と天から警鐘を鳴らされた、言い方を変えれば天から啓示をいただいた、そのように思えてまいりました。「いい気になるなよ」との神のお告げであり、ここで無理をして、リーマンショック当時のときのように将来に負の芽を作ってはならないと感じるようになりました。

今取り組むべきは、方針・戦略、ビジネスモデルを確固たるものとするべく、人財を育て、しっかりとした業績をつくっていくこと。そして、お客様視点で高い付加価値を創出し、全員の力でお客様の喜び、事業価値、社会価値を高め、株主の皆様喜んでいただくこと。そのことこそが我々の使命だと悟ったわけです。規模の価値ではない、規模は後からしっかりとついてくるものだ。今まで支えてくださった株主様をもっと大事にしなければいけない、今般の公募増資という行為は株主様を蔑ろにしていることだと考えたわけ。「やっていることが違うぞ、正しくないぞ」というお告げであると受け止めました。今後も、身の程をわきまえ、しっかりと市場に寄り添いつつ、着実に事業を伸ばしていくことこそが大切なのだということを改めて思い知りました。

今般の公募増資の中止という行為は、当社グループの将来を決める大きな転換点であるという気がいたしております。今後も正しさを見つめ、深く考え、株主の皆様からの負託にお応えできるように、企業としてしっかりとした哲学をもって成長をしてまいりたく考えております。

株主の皆様、投資をお考えいただきました皆様には多大なるご迷惑をおかけいたしましたこと、深く陳謝いたします。今後ともご支援賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 4 月 16 日

サンフロンティア不動産株式会社
代表取締役社長 堀口 智頭